

歓迎

(一社)日本植木協会
平成二十五年度
通常総会

歓迎のご挨拶

中部ブロック長
永井康之

(有)永緑園・愛知県

全国会員の皆様、また各
関係団体の皆様、明けまし
ておめでとうございます。
本年、六年振りに全国総会
を中部ブロックにて開催さ
れます事、誠に喜ばしく存
じます。

開催会場である熱田神宮
の歴史は古く、一一三年に
創建され、二〇一三年(平

</



オタフクナンテンのPOT生産

二十年前、三重県の生産はサツキ・ヒラト・クルメ等のつじ類とアベリア・キンメツゲ・キンモクセイ等の根巻物がほとんどで、POT生産といえばレッドロビンくらいでした。ついで、生産農家が八百軒ほど有り、出荷本数も一千万本を超えていました。それが、今ではつじの出荷本数は、二百万本程度まで減少しています。

その一方、POT生産は五百本を超えており、まだ増える傾向にあります。中高木も、根巻物からロジック栽培にシフトしてきています。

生産者も世代交代し、時



シラカシのロジテック生産

『サツキからPOTへ』大量生産のDNAは受け継がれています。

この三重県の生産力を持つことを立てて、東北復興工事に役立つと思っています。

是非、大量の受注生産の話があれば、三重県へお声かけください。



組合の挿し木施設



タマリュウ生産販売
タマリュウ定期便で
いつでも・どこへでもお届けします。
ご注文はホームページ、
電話・FAXでも承ります。
〒893-0013
鹿児島県鹿屋市札元2丁目3727-2
TEL: 0994-44-6993
FAX: 0994-44-6996
URL <http://www.tamaryu.jp/>
E-mail: net-shop@tamaryu.jp

『サツキからPOTへ』大量生産のDNAは受け継がれています

三重県支部長
野呂誠

(株)鈴鹿グリーン

を確保していくと聞いています。

最近は、タマリュウなどに品種を絞り大量生産している方・御業者さんと組んでいます。

代の二~三に合わせ、多品種少量生産をする方が多いのですが、無駄も多く利益

上げています。

もともと三重県は、サツキで馴染した『挿し木の技術』には自信があります、

いつも大量生産ができる『土地と施設』もあります、高速道路の発達により、北海道・沖縄以外なら

トラックで翌日に納品できる『地理の利』もあります。

この三重県の生産力を、東北復興工事に役立てたいと思っています。

『サツキからPOTへ』大量生産のDNAは受け継がれています。

新年明けましておめでとうございます。平成二十五年度一般社団法人日本植木協会通常総会が名古屋で開催されることを中部アロックの一員として心より歓迎申し上げますとともに、本総会が会員の皆様にとって有意義なものになることを祈念申し上げます。

さて、福井県支部の会員はどつとう弊社1社になってしましました。したがって支部の活動等も弊社の活動そのものになったと言つていいと思います。しかし逆に考へると活動したいだけでも、一年間積極的に協会の活動に参加したつもり

が紙面を借りて今まで以上にお声かけいただき事をお願いいたします。

福井県の樹木需要は世間に並みに悪いながらも一時的な需要を感じられます。そのため、得意のクロマツ・アカマツ等のマツ類の生産数を減らした影響がで、いざという時に足りないものがあります。安全重視

並みに悪いながらも一時的な需要を感じられます。そのため、得意のクロマツ・アカマツ等のマツ類の生産数を減らした影響がで、いざという時に足りないものがあります。安全重視

（株）清水植物園
福井県支部
清水洋樹

ですが、まだまだ有意義なのが現状です。今年はより一層努力したいと考えていますので、大変恐縮ですが紙面を借りて今まで以上にお声かけいただく事をお願いいたします。

福井県の樹木需要は世間に並みに悪いながらも一時的な需要を感じられます。そのため、得意のクロマツ・アカマツ等のマツ類の生産数を減らした影響がで、いざという時に足りないものがあります。安全重視

並みに悪いながらも一時的な需要を感じられます。そのため、得意のクロマツ・アカマツ等のマツ類の生産数を減らした影響がで、いざという時に足りないものがあります。安全重視

政権交代があり東北はもちろん日本全体の復興を期待してお粗末ながらも現状報告させていただき、また最後に、会員の皆様のご健勝を願いまして歓迎の挨拶ともさせていただきま

和やかな雰囲気を演出した動物のトピアリー（共有スペースでは他団体による子供対象のワークショップを開催）

十二月十三日㈭～十五日㈮（東京都江東区有明）で開催されたエコプロダクツ2012森からはじまるエコライフ展にて、グリーンウェイブ普及広報を推進する団体で構成された「生物多様性と子どもの森実行委員会」に協力する形で協会事業のPRを行った。ベース内では、各団体による子供対象のワークショップが開催された。本協会は、ベース内に明るい雰囲気を提供するトピアリー展示を行い（有小林養樹園（東

京都）協力）、訪れる子どもたちの目を引いていた。エコプロダクツ展の総来場者数は、三日間で十八万人弱、出展者数はおよそ七百五十社・団体。

A B版208頁
会員特価（税込）3,600円（定価3,990円）
監修：一般社団法人 日本植木協会
発刊：経済調査会
著者：三上常夫／若林芳樹／長谷川哲士
※ご注文は協会ホームページ会員限定情報に掲載されている書籍注文書をプリントアウトし、FAXにて直接出版社へお送りください。

広報・普及委員会

エコプロダクツ2012出展

生物多様性と子どもの森実行委員会に協力！



書籍紹介

生垣図鑑－新しい生垣の提案

つる植物を含む厳選131種の生垣事例をオールカラーで収録。樹種の選び方から生垣作り・管理までを解説した生垣論の決定版



全国都市緑化フェア TOKYO 日比谷会場
実・葉・枝を、生食や加工で、「からだ」に取り込むことができる樹木約70種類を盛り込んだ「新樹種を食べる!」ガーデン
樹齢250年のオリーブが象徴的



新しい樹木の研究・開発・普及をめざし活動している「新樹種部会」が、十月二十六日(金)、全国都市緑化フェア TOKYO 2012 開催中の日比谷公園、緑と水の市民カレッジにおいて、第十一回新しい造園樹木の

研修会を開催し「食」をテーマに樹木のPRを行った。緑化フェア日比谷会場で展示中の新しい樹木実物を見ながら、樹木のプロである生産者から特性や管理上のポイントを学べる研修会は、例年好評であり、

新樹種部会 「新しい造園樹木の研修会」

～樹木と過ごす豊かなライフスタイルを提案～

今日はスピーカーを含む参加者五十名が参加した。研修会に先立ち、実・葉・枝を、生食や加工で、体に取り入れ事ができる樹木約七十種類を盛り込んだ「新樹種を食べる!」ガーデンを都市緑化フェア日比谷会場にて会期中展示し

た。研修会第一部は、その屋外展示ガーデンでの樹木実物見学会。解説員は川原田邦彦氏(確実園芸場・茨城県)。川原田氏が解説を始めると、公園散策中の園芸愛好家などが集まり、ガーデン周辺には百名を超える人ばかりができた。

第二部は、屋内の「緑と水の市民カレッジ」研修室へと会場を変え、秋以外に見頃、結果などをわかる樹木について、上条祐一郎氏(有丸八種苗園・長野県)が、映し出されるスライドに基づき、時おりクイズを交えながら楽しく解説した。

休憩時には、会場後方に展示した畠(圃場)で実りを迎えた果実などの展示の紹介を行った。参加者は、スパーでほほびない珍しいかんきつ類など、部員の説明を聞きながら、多くの実りに触れ、香りを確かめ、味わっていた。

第三部では、実際の実りを生活に取り入れるライフ



第二部 スライドによるオフシーズンの植物紹介(上条祐一郎氏)



第三部お庭の実り(クラブアップル、ブルーベリー、くるみ)を使うスィーツ調理実演。試食に参加者の表情もやわらかいだ。

参加者は、二〇一三年版新樹種カレンダー、そして会場内のかんきつ類などのお土産を手に帰路についた。

参加者は、二十周年記念大会の今後の活動にご期待ください。

新樹種カレンダー、そして会場内のかんきつ類などのお土産を手に帰路についた。

新樹種カレンダー、そして会場内のかんき

